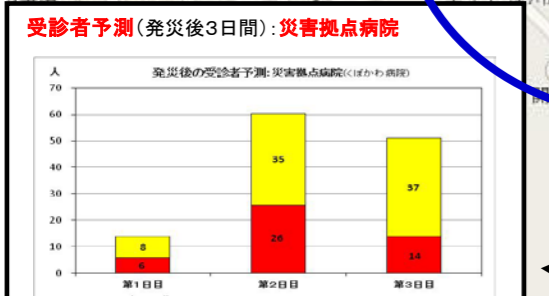
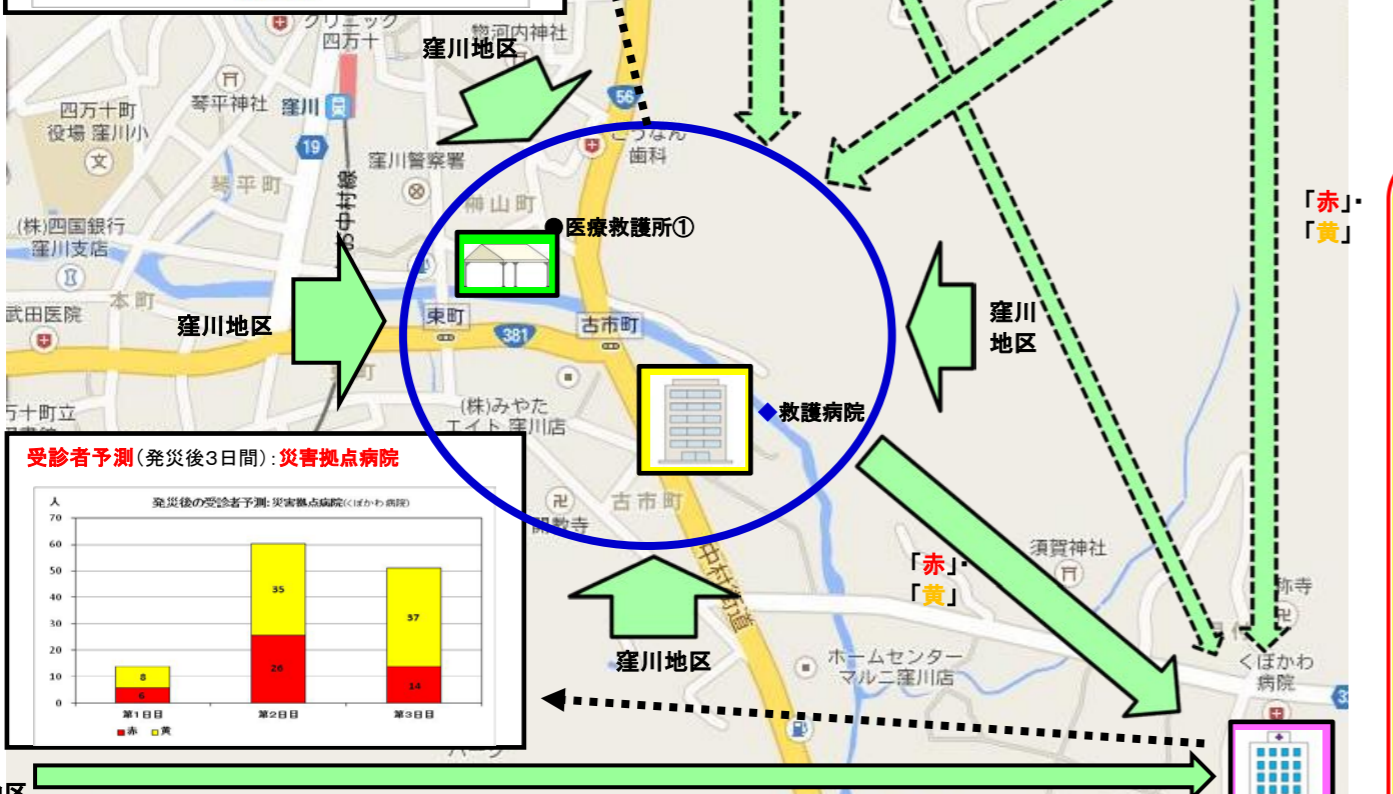
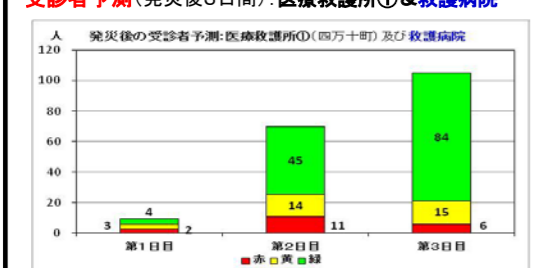
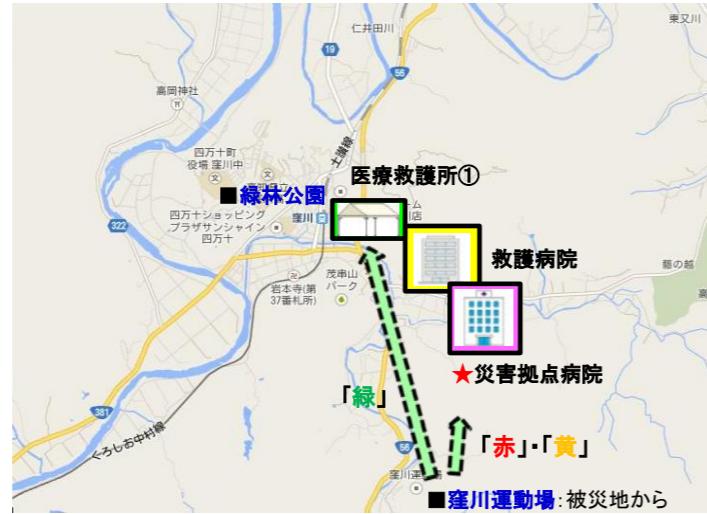


南海トラフ地震時医療救護活動体制の目指す姿【四万十町】

【目指す姿】

- 医療施設の大半が津波浸水想定区域外であり、地域の医療資源を総動員した前方展開型の医療救護体制
- 津波被害が想定される中土佐町や黒潮町からの負傷者や避難住民の移動等を踏まえた広域的に患者の受入を可能とする医療救護体制

患者の流れ(予測:破線は市町外への移動)



医療救護施設における受診者予測(負傷者:発災後3日間)における設定条件

- ① 県の南海トラフ地震被害想定(L1)における負傷者数を使用
- ② 発災後3日間に、トリアージ区分「赤」80%、「黄」70%、「緑」60%が受診すると仮定
- ③ 東日本大震災における石巻赤十字病院の受診者数推移をモデルとして算出

※ 急性疾患患者(救急患者)や慢性疾患患者(要医薬品)は含まれていない点に留意

* 受診者予測は、平成26年度

◎H28 総力戦に向けた取組強化

- ・住民を対象とした防災訓練 学習会の開催(10月15日)
- 参加者:40名

内容

- ▶トリアージについての周知
- ▶搬送法、瓦礫からの救出法
- ▶応急手当等

◎H29 訓練の継続実施

◎H27 前方展開型の医療救護体制整備

[四万十町災害医療実務担当者ネットワーク会議](H26年12月)

◀前方展開▶

- (H27)検討会を設置し検討
- ①既存の診療所を利用して、前方展開を踏まえた医療救護所の配置等の決定(H27年10月)
- ②医療救護所に従事する医師等の確保対策の決定(H27年10月)
- ③医薬品検討会を立ち上げ(H28年2月)、医療救護所で使用する輸液等の急性期医薬品の確保の検討

◎H28 医療救護体制整備の加速化

- ①医療救護所で使用する急性期医薬品の確保策の検討継続
 - ◎第1回検討会(H28年5月27日)
 - ・窪川地域での輸液等在庫状況の確認
 - ・急性期医薬品の必要量算定
 - ・備蓄方法の検討
 - ◎第2回検討会(H29年3月中旬予定)
 - ・具備蓄量(くぼかわ病院)の活用と大西病院への備蓄を検討
- ②広域的な負傷者受け入れのための医療連携の体制づくり
 - 中土佐町、四万十町間の連携イメージの検討開始
 - ・くぼかわ病院災害訓練での両町の連携(H28年10月17日)
 - ・医療支援チーム等の受入体制の検討(H29年)

◎H28 医療救護所の設置・運営の具体化

- 設置・運営訓練の実施(7月16日)
- 【検証】・軽症エリアが手狭なため、エリアの再検討
- ・患者搬送者の確保・担架及び搬送者の不足等
- 内容を精査しマニュアル化を検討

◎H29 救護病院・災害拠点病院との医療連携体制整備

◎H28 資器材整備の検討

医療救護所 農村環境改善センター

被災地域(主に窪川地区の市街地)

◎H28 医療従事者等の確保対策

診療所:6ヶ所(医師6名)

薬局:5ヶ所

潜在看護師等の掘り起こし

◎H28 災害拠点病院

172床、医師13名(町外10名)

◎救護病院

97床、医師3名(町外3名)

◎H28 輸液等急性期医薬品の確保対策

◎H28 医療救護体制整備

◎H28 地域本部と協力し、「応急期機能配置計画」と並行して検討!

※医療救護所の運営には、住民(医療・介護ボランティアを含む)の協力が必要。

*各種数値(病床数、医師数、薬局数等)は、平成27年12月現在

*診療所の数については、便宜的に2ヶ所管理等を行っているもの除外(概ね、週5日以上診療)

【被害想定(L1)】

四万十町	負傷者				避難者
	赤	黄	緑	計	
窪川地区【D】	24	47	164	235	759
大正地区【E】	5	10	36	51	165
十和地区【F】	5	11	38	54	176
計	34	68	238	340	1,100

◎H26 タイムラインによる対策のまとめ → **H27対策の具体化** → **H28対策の具体化を加速**

◎H26 前方展開を踏まえた地元診療所の活用

東又地区 被災地域(東又、仁井田地区) ※市街地まで一定の距離がある

仁井田地区

◎H28 窪川地区

◎輸液等急性期医薬品の確保対策

◎医療救護体制整備

◎H28 大正地区

被災地域

薬局:1か所

◎医療救護所:大正診療所(19床、医師2名) トリアージ&応急処置(【緑】患者の処置を含む)

◎H28 十和地区

被災地域

薬局:1か所

◎医療救護所:十和診療所(無床、医師1名) 応急処置(【緑】患者の処置を含む)

◎H28 大正・十和地区

- ・津波浸水想定区域外
- ・医療救護所として診療所を活用
- ・道路寸断により孤立する可能性あり

◎H28 窪川地区

- ・津波浸水想定区域外(興津地区を除く)
- ・医療施設の大半が活用可能